

各論の見方

各論



ハマスズ（バッタ目コオロギ科）体長：8mm内外
生息場所：砂の多い砂礫地 撮影：SERP

目名・科名（分類上のグループ名）

標準和名（日本で一般的に使われている名前）

昆虫類の大きさ

体長：頭部から尾端（翅端）までの長さを示します。

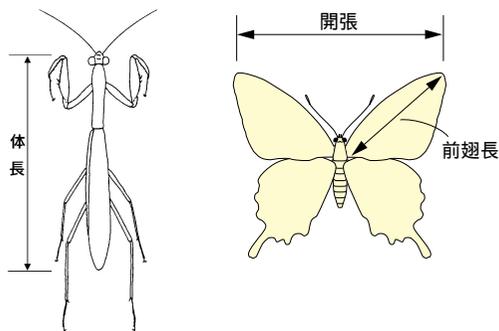
開張：トビケラ類、ガ類の翅を広げた長さを示します。

前翅長：チョウ類の前翅（まえばね）の長さを示します

生息場所：河川での昆虫類の生息場所を示します。

トンボ類は主に幼虫の生息場所を示します。

生息環境が特定できない種や不明な種は、成虫が主に見られる場所を示します。



河川との関わり

幼虫は「ヤゴ」と呼ばれ、水中で生活しています。河川や水路などの流水中に生息する流水性の種と、河原に形成された池や水溜まりなどの止水水域に生息する止水性の種があります。特に、河原の水溜まりなどは止水性のトンボ類の良好な繁殖場所となっています。



オオイトトンボ(トンボ目イトトンボ科) 体長: 36mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇

「平成10年度河川水辺の国勢調査 陸上昆虫類等」では、27種のトンボの仲間が確認されました。多くは長野県内に広く分布している種ですが、本来は生息していない南方系のオオギンヤンマや、全国的に珍しいマダラヤンマも確認されました。

トンボの幼虫は「ヤゴ」と呼ばれ、水中で生活しています。ヤゴの生息環境は、山間の溪流、平野部の大きく緩やかな流れ、水田脇の用水路、植物に覆われた池や沼、大きな湖など様々です。トンボの仲間は、このヤゴの生息環境から「流水性トンボ」と「止水性トンボ」の2つに大きく分けられます。天竜川で確認された流水性の種は、ハグロトンボ、ダビドサナエ、オニヤンマなどです。一方の止水性の種は、オツネトンボ、ギンヤンマ、オオシオカラトンボ、アキアカネなどで、確認されたうちの大半は止水性のトンボです。

天竜川は河川敷が広いために流路がいくつにも分かれ、緩やかな流れや湧水が池状になった溜まり水が多く存在しています。そのために、本来は池沼や水田に生息する止水性のトンボ類が多く見られるのでしょう。またトンボの仲間の多くは、羽化後しばらくの未熟な成虫期を羽化場所から離れた草地や林で過ごしますが、天竜川の河川敷にはそれに適した広い草地や河畔林が多く存在していることも一因だと考えられます。

トンボの仲間はオスが占有行動をとることがあります。占有行動とは、1個体がある一定の範囲(テリトリー)を見張り、その範囲内に同種のオスや他の種のトンボが侵入した場合に追い払うことを指します。占有行動は、テリトリー内を飛行して見張る方法と、枝先や水際に静止して見張る方法があり、テリトリーへの執着の強さも種によって様々です。飛行して見張るタイプはヤンマの仲間が多く、オオルリボシヤンマやギンヤンマなどが一定範囲をグルグルと旋回している様子は大変目立ち、他のトンボ類を体当たりで追い出す様子は壮観です。静止して見張るタイプでは、ショウジョウトンボやオオシオカラトンボが執着度が強く、他のトンボ類が近くを通ると瞬間的

に飛び立って追い払います。

また、近縁な種の間では、占有する環境の好みが微妙に異なります。例えば、ギンヤンマは日当たりが良く開放的な池を好みますが、クロスジギンヤンマはより日陰が多く周辺を木立に囲まれた小さい池を好みます。全く同様に、シオカラトンボは水田などの平坦な場所にある開放的な水域を好みますが、オオシオカラトンボは林に囲まれた閉鎖的な池沼を好みます。このような現象は“棲み分け”と呼ばれ、トンボの仲間だけでなく、生態系の様々なところでみられる現象です。



トンボの幼虫(ヤゴ)は、水中で水生昆虫などを捕食します。 撮影: SERP



キイトトンボ(トンボ目イトトンボ科) 体長: 38mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



アジアイトトンボ(トンボ目イトトンボ科) 体長: 29mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



ホソミオツネトンボ (トンボ目アオイトトンボ科) 体長: 38mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



オツネトンボ (トンボ目アオイトトンボ科) 体長: 35mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



オオアオイトトンボ (トンボ目アオイトトンボ科) 体長: 46mm内外
生息場所: 樹林の多い樹陰のある水溜まり 撮影: 細江 崇



ハグロトンボ (トンボ目カワトンボ科) 体長: 60mm内外
生息場所: 水生植物の多い緩流部 撮影: SERP



ダビドサナエ (トンボ目サナエトンボ科) 体長: 43mm内外
生息場所: 山地の渓流部 撮影: 星野 利雄



オニヤンマ (トンボ目オニヤンマ科) 体長: 95 ~ 100mm
生息場所: 細流・緩流部 撮影: 細江 崇



コオニヤンマ (トンボ目サナエトンボ科) 体長: 85mm内外
生息場所: 山地の渓流部 撮影: 細江 崇



マダラヤンマ (トンボ目ヤンマ科) 体長: 65mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 星野 利雄



ギンヤンマ(トンボ目ヤンマ科)体長: 70mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



シオカラトンボ(トンボ目トンボ科)体長: 50 ~ 55mm 生
息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



シオヤトンボ(トンボ目トンボ科)体長: 42mm内外
生息場所: 水溜まり 撮影: 細江 崇



ショウジョウトンボ(トンボ目トンボ科)体長: 48mm
内外 生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: SERP



ハラビロトンボ(トンボ目トンボ科)体長: 32mm内外
生息場所: 抽水植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



オオシオカラトンボ(トンボ目トンボ科)体長: 50 ~ 57mm 生
息場所: 水溜まり 撮影: 細江 崇



ウスバキトンボ (トンボ目トンボ科) 体長: 45mm内外
生息場所: 水溜まり 撮影: 細江 崇



ナツアカネ (トンボ目トンボ科) 体長: 38mm内外
生息場所: 水生植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



コシアキトンボ (トンボ目トンボ科) 体長: 40 ~ 45mm
生息場所: 樹陰のある水生植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



コノシメトンボ (トンボ目トンボ科) 体長: 40mm内外
生息場所: 水生植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



マユタテアカネ (トンボ目トンボ科) 体長: 38mm内外
生息場所: 水溜まり 撮影: 細江 崇



アキアカネ (トンボ目トンボ科) 体長: 40mm内外
生息場所: 水溜まり 撮影: 細江 崇



ノシメトンボ (トンボ目トンボ科) 体長: 45mm 内外
生息場所: 水生植物の多い水溜まり 撮影: 細江 崇



ヒメアカネ (トンボ目トンボ科) 体長: 34mm 内外
生息場所: 水溜まり 撮影: 細江 崇



ミヤマアカネ (トンボ目トンボ科) 体長: 34mm 内外 生
息場所: 緩やかで小さな流れ 撮影: 細江 崇

「生きた化石」ムカシトンボ

ムカシトンボ (昔蜻蛉, *Epiophlebia superstes*) の種に与えられた学名 *superstes* は「生き残った」という意味です。世界には約4,870種、日本には約200種のトンボが生息しています。ムカシトンボはトンボ目ムカシトンボ亜目ムカシトンボ科ムカシトンボ属に属するトンボです。ムカシトンボの仲間は、中生代の三畳紀、ジュラ紀に全世界に栄えたトンボです。それらは化石から窺い知ることができるだけで、現存するのはムカシトンボとヒマラヤに生息するヒマラヤムカシトンボの2種だけです。そんなことから「生きた化石」と言われています。



ムカシトンボ 撮影: 細江 崇



ムカシトンボ 撮影: 細江 崇

ムカシトンボの幼虫は、主に山地や丘陵地の溪流に生息しています。同じ溪流には、ダビドサナエ、クロサナエ、ミルンヤンマ等の種も生息していますが、それらは溪流の中でも落ち葉が堆積するような流れの遅い場所において、白波の立つような急流の中にいるのはムカシトンボだけです。分布的には北海道から九州まで広く生息していますが、ムカシトンボの生息している溪流は限定されています。長野県では全県に記録がありますが、北信の志賀高原や中

信の北アルプスを除くと山地は限られています。

トンボの幼虫は、餌の状況によって2年程架かることもあります。ほとんどの種が1年以内に成虫になります。トンボ科のウスバキトンボは、夏季には1ヶ月程でトンボになってしまいます。しかし、ムカシトンボは幼虫の期間が長く、成虫になるのに7~8年かかると言われています。ムカシトンボは、サクラの季節が過ぎた4月下旬に成虫になり、他のトンボが見られるようになる6月には姿を見かけなくなってしまいます。

幼虫は成虫になる一ヶ月またはそれ以上に水中から陸上に移動して過ごします。水辺でそのまま成虫になることもありますが、多くの個体は数m以上は離れます。最高では水辺から30mを超える例も報告されています。

天竜川本川にはムカシトンボは生息していませんが、支川からはムカシトンボの生息が何ヶ所か報告されています。山地溪流というと天竜川の支川でもかなり上流にしか生息していない様なイメージですが、天竜川の狭窄部に流れ込む支川では、天竜川本川に近い場所にも生息しているかもしれません。



ムカシトンボの生息する溪流 撮影: SERP